



六月の自然界

刺ある葉の形も黄紅の花の形も、共に薊に似たれども、やがては臘脂となるべき紅花は、邊鄙の乙女の手摘みとられ、力なげなる一重の花瓣が、翔ける燕の羽風に散らされて、青緑なる罌粟は、裸の小坊主をさし出しぬ。

蠶は眠りて又起さぬ、はや繭を造りそめしものもあらひ。麥は黄ばみぬ、熟らばやがて刈られなむ、木棉も種、黍、稗、胡蘿蔔などの種、西瓜の苗などは、刈りとられたる麥の跡などに蔭かるべ

く植ゑ付らるべし。

月の十二日は入梅とて、此頃より小粒になりて降りそむる梅雨は、女性の如くをとなしく、傘に當りて音もせず。或は三日或は四日五日と横に斜に浮ぶが如く飛ぶが如く降りつゞく。或夜ひそかに松の月みる亦面白し。

梅雨の中に長き穗垂れて柿色の花咲けるは栗の樹なり、青葉の間にノコノコと圓顔つき出せるは、高き梅の樹の實の黄色に熟せるなり、低き覆盆子の實の紅色に熟せるなり。

農家は、殊に忙はしくなりぬ、苗代に手をついて歌申上ぐるは、無調法なる蛙なり、袖ぬらしつゝ、たま苗を植ゑ移し行くは、やさしき鄙の乙女なり。

新竹は、なよやかに高く聳え、芭蕉は、廣く舒

びて鷹揚なり、白き赤き紅のさまじの薔薇の花は垣根に匂ふべく、蔭孫、燕子花などは、今を盛りと咲きまざるべく、訪ふ人の絶え間なき名に負ふ園は、いふまでもなく、人の來ぬ、山の裾に、水際に人手を待たず獨り熙然と咲きはへたるも、思ひやられて、眼に見ゆる心地す。

若鮎の、夜暮に川の早瀬をのぼり來て、勇ましく跳ねたる、螢の、路細く追はれぬ澤の葦の間にきらめける、飛んで淡墨色の森の中にさまよへる、など見ん人もあらひ、夜は更けて何處に行くらひ杜鵑の唯一聲を既にかすかに聴きしなるべく、幽かなる柴の戸敲く秋鷄を聴くもこれよりならむ。

野末の小溝の蘭の莖の、泥より出で、細長き胸の邊に蜻蛉の衣更して軟かき背乾し居たる、さながら軟さし上げし澤瀉の下に鱧の一泡吹き洩した

る、川骨の側の藻の間に丁斑魚の長閑に浮び遊びたる、行きて今月の水邊に立て、更に多くの趣きあらむ。

あゝ此月の草よ、樹よ、花よ、實よ、蟲よ、魚よ、鳥よ、雨よ、流よ、夕暮よ。(摩訶生)

### 机邊餘錄

▲澤山な知己の中には、さうしても自分と感情の合はぬ人がある。別に、其人が、自分に對して惡意があるでない、また他人に對しても、さうと云ふこともあるではない。然しながら、自分は何處までも、其人と氣が合はない。其人に會ふと忽ち何だか一種言はれぬ惡感情を發する、そして其人の爲ることなすことが、さうにも氣に食はない。かういふ様な人が、よくあるものであるが、自分

は、それは矢張り一種の我儘だらうと考へる、そして一種の嫉妬心も加はつてゐるかの様に思はれる。

▲世の中には、又無暗に、自慢したがる人があるものだ。其自慢にもまた、いろいろ種類があるが、要するに、この自慢と云ふものは、つまり自分を大きく見せようと云ふのであつて、八釜しい言葉で、いふと、自己擴張という動機から、出てるのである。

▲所が、人によると、對手が無暗に、自慢をしてかゝるのを、非常に嫌ふ人がある。どうも彼の人と交際するのもいやが、あゝ吹かれては困る。と云ふ言つて、なるべく交際を避け様とする。然し、能く、考へて見ると、何も、自慢する丈のことは、一向罪のない話なので、のみならず、黙つ

て其人の自慢を聞いてやるのは、大に其人に對して、功德になるので、向ふはそれでいて、頗る愉快を感じる、といつて此方に損の行く譯でもなし、だから多少、厭な所があつたにしても、辛捧して聞いてやるのが、亦交際上の一の義務である。

▲然し、自分の自慢の爲に、他人を引合に出して他人の悪口をいつて、夫で自分を高めるに至つては、自慢も、決して罪がないとは、云はれぬ。

▲前號だつたか、他所へ御客に行つた時分には、極仲のいゝ間柄などでは、主人も妻君も一所に出て来て呉れて、應接して呉るのが、御客に取つては、頗る愉快に感じるものだと言つたが、之と反對に、世の中には、随分妙といはうか、酷といはうか、甚合點の行かない主人がある。

▲それは、こふなので、せづ人が行くといふと

お客の前であるにも係らず、無暗に、妻君を叱り散らすのである。其人の平素は知らないが、兎に角人が行くと、いやも一散々に叱り散らして、側で居るのもまことにつらい程なのだ。あまり妻君に氣毒でならないからつい用事も、倉々にして出て来る様なことが、度々あつた。

▲世の中に何が分らないといつて、これほど分らないことはまづあるまい。つまり其主人の考といふのは、こうなのだろう、己などは、妻を御するのは、こんなものだ、決して世の鼻下長などの様に、尻には敷かれない、とまあこういう大器量を見せる積りなのだろうしかし、恐らくこれほど間違つた考といふものはない。第一お客に對して失敬である、次に自分の家庭の不調和といふ内兜を人に見すかされるといふ、ものなのである。

▲例合平素は、どれほど中が悪いにしても、よし一歩進て、今の今まで、争つて居たるにしてもさ一客來といふ時分には、丸で打つて變つて、そんな氣ぶりは、ちつとも見せないで以てやつて退けるといふのが、最感心の仕方なのである。

▲どの位、仲のよい夫婦にした所で、そりや朝から晩まで一年三百六十五日、一所に住つてゐるのだもの、會には、女房の方からの氣儘も出よう、夫の方からの我儘も出よう、そこで多少の争も始まらぬとも限らない。こんな時分には、そりや夫は男だから、随分腹の立つ時は、女の頭の一や二やなぐりたくもなるものだ。さればといつて、こゝでなぐりつけて仕舞つては一向に榮えないので、男の器量といふものが、たゞ一段と下がる丈に過ぎないのだ。

▲そこで、こう云つた人がある。「そりや どれほど辛棒して居つても、妻に向つては、随分腹が立つこともある、然し、一體が、どうしたつて妻といふものは女で、自分より考が足りないのだから、こんな氣の利かないこともやるのだと思つて我慢して居る。それに又、時々妻の善いことなどを、書きつけて置いて、萬一、腹の立つといふことのある時分には、そつとそれを開いて見て、今日は、こんなつまらないことを仕でかしたが、しかし平生は妻だつて、こんな善いこともしてるのだと考へ直して、夫で以つて、我慢して行くのだ」

(擊水生)

### 音樂的趣味の缺乏

甚しきかな我邦人の音樂的趣味に缺乏せること

と。琴三絃の如き鄭聲の樂は、至る所の社會に歡迎せらるゝに係らず、高尚壯嚴なる西洋樂は、遂に之を聞くの耳なきなり。毎年何回か開くる東京音樂學校の演奏會には、聽衆立錫の地を餘さずといへども、併も之を解する者としては、まことに寥寥にして、其多數の人々は、寧淺草の球乗のはやし方遙に愉快を覺ゆるなり。聽衆の多數は、演奏の曲目さへも殆分らぬなり。嘗て同會に臨みての歸るさ、まさに校門を出んとするや、高襟の一紳士呆然として其友を觀みて曰く、「嗚呼樂隊の方が、どの位か面白い」多數は大低此の如しと見て差支わらぬなり。

八十二

音樂的嗜好の低きは、實に品性の高尚ならざるを示すものなり、風俗の純良ならざるを示すものなり。イソ節やストライキ節が 縦横に勢力を逞

しうする間は、とても、音樂的趣味の發達どころに  
あらず、品性風俗の改良も亦容易に望むべから  
ざるなり。

### 公德の缺乏と私徳

名は、公德問題といふといへども、實は私徳問  
題なり。所謂公德問題なるもの、其意味頗漠然た  
りといへども、要するに、或一定の人若は場合に  
對する徳義にわらずして、一般社會に對する徳義  
なり。即何人を問はず、如何なる場合を論せず、  
凡べてをよくせんとする道義心の發表に外なら  
ず、換言すれば博愛衆に及ぼすに外ならざるな  
り。これ實に道徳の極致にして其完全に達したる  
もの、此の如きは、私徳の完全ならざるものにあ  
らざれば、よくすること難し。公德の支離滅裂は

即、私徳の不能不完全を顯はせるもの、廿世紀の  
序幕開けたると同時に公德の缺乏を絶叫せる國民  
は、遂に其根本たる私徳の缺陷を覺らざるが如  
し。願はくば、名のみならずして實ある私徳を涵  
養せよ、願はくば、形式のみに走せずして内容あ  
る私徳の實行を勉めよ。源泉の汚濁を顧り見ずし  
て、徒に末流の清澄を望む、吾れ、誠にその効な  
きを知るなり。

### 改良衣服

一方に於ては、尙議論の熟せざる時に當て、他  
方に於ては、もはやドシ／＼實行せらるゝに至り  
ぬ。區々とはいへども、昨今東京市内の此處彼處  
に妙齡の女學先徒の、所謂改良服を身に纏うて、  
散點しつゝあるを見る。とに角かゝる問題は議論

の纏まるを待つて居る様にては何時まで待つとも  
 實行の曉には達し難し。議論の可否は既に決した  
 り。只其纏まらざるは、裝飾形式の上在り。此  
 の如きは到底一時に決して、一時に行はるべきに  
 むらず。漸次改良に改良を加へて完成せらるべき  
 もの、婦人諸君、各自に於て各團體に於て、苟も  
 一個の考案成らんか、乞ふ奮つて先づ自ら、着用  
 せられよ、若しくは自家の子女たちに着用せしめ  
 よ。缺點と優點とは、かくして實驗の後初めて眞  
 に改良進歩せしむるを得ん。(以上三件牧羊生)



●女子高等師範學校教授の出張。黒田教授は過月  
 女子教育視察として東北地方に、篠田教授は岐阜  
 縣教育會に、中村教授は、大阪に於ける京坂神連  
 合保育會に列席のため、それ／＼出張せられた  
 りしが何れも先月中歸校せられたりとのことなり

●東京音樂學校音樂會 同校に於いては、今般中  
 學唱歌集刊行せしを以つて、其披露として客月十  
 九日同校奏樂堂に於て盛なる演奏會を舉行せし由

●文部省夏期講習會 本年開設せらるべき文部省  
 夏期講習會の時日、場所學科等は左の如く定まれ  
 りと。

一、開會期限自七月二十五日至八月十四日